

市民との意見交換会実施報告書

開催日時	令和6年8月21日（水） 15時30分～17時			開催場所	鶴岡市役所3階 議会委員会室	
出席議員	氏名	役割	氏名	役割	氏名	役割
	本間 正芳	総括	草島 進一	座長	加藤 鑛一	記録・報告
	本間 信一	参加者受付	黒井 浩之	会場準備	五十嵐一彦	写真・録音
	渋谷 耕一	司会進行				
欠席議員	なし					
テーマ	本市の二次交通の未来と日本版ライドシェアの可能性について					
団体等の名称	鶴岡市内の山形県ハイヤー協会会員				参加者数	6人
実施内容 （概要等）	① 公共交通の考え方と現状、課題について意見交換を行った。 ② 日本版ライドシェアの可能性について意見交換を行った。 ③ インバウンドなど観光客の利用とオーバーツーリズムについて意見を聞いた。 ④ 高齢者の足の確保など課題解決のために行政に何を求めるか意見を聞いた。					

※主な意見及びその回答は、別紙のとおり

令和6年12月2日

鶴岡市議会議長 様

総務班 代表者 本 間 正 芳

【本市におけるタクシー業界の現状と課題について】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・最低賃金は年々上がり、タクシーの需要が減る。働き方改革として営業時間を短縮。24時間営業は従業員を増やさないとできない。年々売上も下がっている。 ・タクシー料金は昨年15年ぶりに値上げをした。賃金は毎年上がり、15年前と比べ車両経費は1.5～2倍、燃料費は3倍、人件費も約2倍となったが、料金の値上げは10.3%。距離を短くして料金を下げる工夫をしている。1.5kmで690円～700円だった料金を、1.2kmで620円まで下げたため、近い距離の人は料金が下がっている。 ・障害者割引の10%分は会社負担であり、給料1人分に相当する。せめて割引分は、国・県・市で負担してもらいたい。 ・庄内空港からの利用者はほとんどいない。 ・4年前から夜間の営業をやめ、受付は7時～21時としている。 ・朝日と櫛引地域は代行の需要が多く、夜は予約のみの運行である。 ・安全上、夜に運転できない高齢の従業員もいる。	各会社の規模や現状をお聞きする。	○			夜間の営業は、どの会社も時間短縮をしているのが現状である。 働き方改革と従業員の高齢化が要因であると考ええる。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【日本版ライドシェアの可能性について】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・ライドシェアが可能な車両数は、営業区域内の車両数の５％までとなっているため、鶴岡市の場合には最大で４台しか登録できない。 ・夜の飲み会で電話が来るのが、１１時か１２時頃で、それ以降はない。夜中まで飲んでいて人はいなくなった。コロナ禍で家飲みが定着した。金・土曜日でも夜の２時になれば電話は来ない。ライドシェアが必要なのか疑問である。 ・東北でライドシェアをしているのは、仙台交通圏と青森県内の１社だけである。青森県の成長タクシーは、事務方や役員も運転手であり、会社の車を白ナンバーに変えている。仙台では数名の応募があったが、条件を話すと拒否され、結局は１人しか残らず、仙台交通圏でライドシェアの車両は、今年の６月～８月の間では、１週間に１回も運行していないようである。 ・市内では、タクシーの需要が減っている状況であるのに、ライドシェアが参入してくると、会社経営はさらに死活問題となる。 ・ライドシェアの運賃は、事前確定運賃（メーター料金ではなく、最初に指定された運賃）だが、鶴岡には、まだ、タクシーアプリの会社は参入していない。事前確定運賃の場合は大通りを走る計算になるので、メーター料金のタクシーに比べ、料金は高くなる。 ・今のライドシェアは、タクシー会社が主体だが、将来はアプリ会社が主体になると考えられる。タクシー会社がやらないと、ウーバーが参入してくる。それをさせないために、現在はタクシー会社が運営している。	自治体がタクシー会社を支援する「石垣版ライドシェア」について説明。		○		日本版ライドシェアについては、本市ではアプリの問題など、受け入れる準備はできておらず、またタクシー業界としても必要性を感じていない状況である。 ただし、内陸では利用できず、庄内地方では利用できない配車アプリに関し、石垣市ではアプリ業者と協議して負担の掛からない形を模索しているとの説明があったため、その内容を共有した。 石垣市のように、行政とDiDiやGOなどの配車アプリ業者の協議による今後の支援については、可能性があると考えます。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【インバウンドなど観光客の利用とオーバーツーリズムについて】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・タクシーは、通院のための利用者が中心で、観光やインバウンドではバスの利用者が多い。 ・庄内空港から羽黒山に行く外国人は少なく、仙台空港から貸切バスで行く人が多い。鶴岡には宿泊せず、通過地点に過ぎない。観光地に外国人が何人歩いているか見れば分かる。他県の観光地では外国人を見かけるが鶴岡では見かけない。台湾からの旅行客は旅行会社とタイアップしてタクシーを使っているが、鶴岡ではインバウンドでタクシーが足りないという状況ではない。 ・石垣島のオーバーツーリズムの話を知ると大変羨ましい。それだけの需要があれば、従業員の処遇改善ができる。会社では観光に対して力を入れているが、観光客がまだまだ少ない。交流人口を増やし、たくさんの人から来ていただきたい。	月山8合目から登って湯殿山に降り、湯殿山でタクシーを拾って8合目に置いてある自分の車に戻ってくるという「月山フォーラム」の企画で、庄交ハイヤーを見た。 2人で利用して金額は1万6千円と少し高かったが、良かったと感じている。タクシーならではのサービスだと思うがまだまだ周知されていない。		○		二次交通の利用客拡大のため、一次交通（飛行機・電車）から二次交通（タクシー等）へつなげることも課題の一つと考えられる。

【夜間のタクシー需要について】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・飲食店からタクシーが来ないと言われるが、依頼が毎日あるわけではなく、月に何度もない。一次会で家の人が迎えに来る。二次会、三次会に行かないことに慣れてしまっている。飲み会の帰りは10分以上も待たされる。車が少ないのに待たされるため、ますます採算が取れない。	夜の飲み会では、タクシーがない、代行がないという声がよく聞かれる。	○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【高齢者の移動手段の確保について】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・朝の7時から10時まではタクシーの予約が取れない場合があり、午前中の通院に利用するタクシーの台数が非常に不足している。市街地周辺部からの通院に対する対策を取ってほしい。 ・免許返納者への助成はあるが、もともと免許を持っていない人にはない。免許返納者への市の助成は、最初は1万円の補助だったが、返納者が増えたためか、5,000円に減額されている。 ・高齢者へ市独自の補助があっても良いと思う。会社独自で高齢者割引を行っていたが、経営を圧迫するため割引をやめている。 ・二次交通ではドアツードアのタクシーに目を向けてもらいたい。市街地の620円の路線は、タクシーを自動運転化し、市街地周辺部の高齢者にはタクシーが必要ではないか。 ・一人暮らしの高齢者に必要な移動手段をどう確保するのか。高齢者の割引券を市に何度も相談したが、応じてくれなかった。買物が必要だが移動手段がない。タクシーを使える仕組みができれば会社も車両台数を増やし、運転手も増やすことができる。 ・車椅子やストレッチャー対応の車両が足りない。運転手が介助する時間と労力が必要だが、料金は同じ620円である。採算が取れないのでやめたいのが本音であり、行政の支援が必要である。 ・車椅子やストレッチャー対応の車両を利用する方は通院の時間帯が多く、時間をずらす仕組みが必要である。年金支給日に銀行で出金する時間帯が集中するので、分散化する仕組みが必要である。フレックス勤務が浸透すると通勤による混雑は減ると思う。	平日の午前中はタクシーが混み合う一方で他の時間帯は空くため、簡単に増車はできないとのことだが、混み合う時間帯に乗れない人への対応は必要である。 高齢者が運転免許証を返納して、代わりにタクシーを利用する場合、生活経費が上がってしまわないか、不安の声を聞く。 合併前の旧藤島町には高齢者（75歳以上）ハイヤー券があって、一人12枚を交付していた。免許証があっても公平に交付し、タクシーの需要が生まれた。合併でサービスがなくなり、多くの不満の声があった。		○		タクシーの需要はあるが採算が取れない場合が、多々あるようである。 病院への送迎などで、日中のタクシー需要は高いが、応えられない場合もあるとのことであった。ここへのライドシェアの可能性はないか。 また、高齢者への市独自のタクシー割引や支援、車椅子やストレッチャー対応の車両への行政支援について、検討すべきではないかと考える。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【その他の課題について】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・夜間に救急車で病院へ運ばれた人が、帰宅する場合に移動手段がないという問題がある。ライドシェアでの解決は難しいと思っているが、各地域で事情が違うので、臨機応変に行政と寄り添って、市民が利用しやすい二次交通というものを考えていきたい。			○		病院からの帰宅時の移動手段については、行政として対処したほうが良いのではないかと考える。

【タクシー業界に理解を示して欲しいこと】

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分 類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
・行政の様々な規制の下で経営してきたが、ライドシェアによる白ナンバーの運行というのは、規制を強化してきた同じ行政が言うのはおかしいのではないかと。 ・乗務員が少ないため空車が多い。 ・タクシーは料金が高いというが、なぜ高いのかを考えてほしい。タクシーは毎年車検があり、自賠責保険も高い上に様々な法令によって拘束されている。自家用車の維持費用とは違う支出があり、乗客の命を運ぶ大切な仕事をしている。 ・タクシー運転手の平均年齢は65歳で、50歳以下は少ない。土・日は休みでなく、年収300万円に満たない現状では、タクシードライバーになる人はいない。稼働率を上げて利益を上げ、ドライバーの収入が増える仕組みができれば、タクシーの仕事は魅力のある仕事である。			○		タクシー料金について、安全で確実なことを考えれば、現在の料金体系は妥当である。 タクシーの運転手不足や高齢化に対しても、行政としての支援や対応が必要と考える。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの